

（6）鯨類飼育をめぐる法政策の国際比較

東海大学 海洋学研究科 海洋学専攻

伊達 尋菜

概要

鯨類飼育に対する
批判の声が増加

飼育
廃止

イギリス

飼育は違法ではないが、1993年より飼育下鯨類は0頭

フランス

2026年までに飼育下鯨類0頭を目指す

カナダ

2019年より鯨類の入手・飼育・繁殖を禁止

飼育
継続

アメリカ

規制管理を強化し飼育、州法によっては飼育禁止

日本

野生導入を巡り水族館協会が二分化(JAZA, JAA)

中国

鯨類飼育ブーム継続中

飼育を廃止した英国、継続する米国を対象として比較検討を行う

メディアの存在

近年、動物福祉の観点から鯨類飼育に対し批判的意見が増加



1993年 フリーウィリー
水族館で飼育されているオルカを
男の子が海に戻す映画

2009年 ザ・コーヴ
太地町のイルカ漁を題材とし
食と飼育を批判したドキュメンタリー



抗議活動の数々



Vegan Strike Group

The International Vegan Strike Group is working hard to create awareness about the great suffering that dolphins in captivity experience. Today at 3 pm (japanese time), two of our activist start a protest inside one of Japan's biggest dolphinariums. We will keep you informed when we know more details about the action.

タイムラインの写真・2017/10/22・📷

(出典: Vegan Strike Group)



(出典: アニマルライツセンター)



(出典: PEACE)

規制を実施した国の一例

年数	国・地域	対応と禁止された行為など
1993年～現在	イギリス	最後の鯨類飼育施設が閉館し、新規建設は実質不可能
2015年	アメリカ	SeaWorldにてシャチの飼育と繁殖、ショーを中止を発表
2016年	カルフォルニア州	シャチの飼育・繁殖を禁止に
2019年	カナダ	鯨類の新個体の入手と飼育、繁殖を禁止に
2021年	フランス	鯨類の飼育を禁止に、2026年までに飼育下鯨類0へ
2025年	メキシコ	鯨類の捕獲・展示・繁殖を禁止に

→日本では鯨類飼育に関する法整備は行われていない

フランスに残された2頭のシャチ

2021年に鯨類の飼育を禁止する法律が成立
→2026年までに全飼育個体の移送を完了させる

日本

捕鯨を行なっていること、動物福祉が不十分であること
法整備が遅れていることを理由にフランス政府が**移送拒否**

スペイン

すでにシャチを飼育しており仔が生まれたことから
施設容量が不十分としてスペインの水族館が**受入拒否**

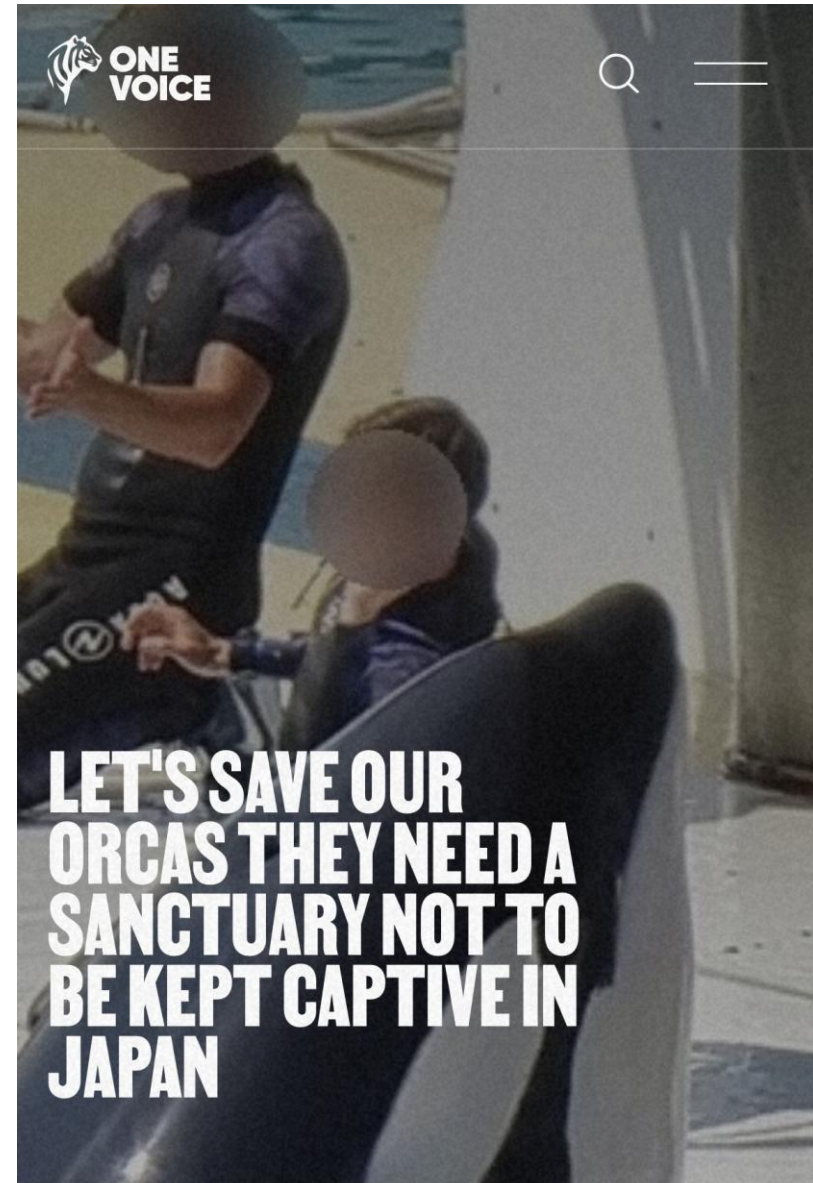
カナダ

輸送予定施設が未完成であることからフランス政府が**移送拒否**

現在も未だ移送先が決まらず、安楽死案も出ている



出典：Tide Breakers



出典：ONE VOICE

各国の法制度

飼育及びショー継続

国名	日本	アメリカ	イギリス	カナダ
名前	動物の愛護及び管理に関する法律	Animal Welfare Act	Animal Welfare Act, The Zoo Licensing Act	Ending the Captivity of Whales and Dolphins Act
管轄	環境省	農務省	環境・食糧・農村地域省	カナダ連邦議会
主目的	人間 情操教育	動物 人道的ケアと処遇	動物 不必要な苦痛の排除	鯨類 保護
基準	展示動物の飼養及び保管に関する基準	Animal Welfare Regulations	Guidance notes for conditions for keeping or training animals for exhibition, Secretary of State's Standards of Modern Zoo Practice	各州にて策定
飼育	○	○	○	×
繁殖	○	○	○	×
ふれあい	○	○	○	×
ショー	○	○	○	×
保護	○	○	○	○
特徴	展示動物に関する基準はあるが鯨類に特化した記載はない	基準等が数値として記載されAPHISによる検査がある	様々な法規制や許可制度があり飼育や繁殖は違法ではないが、事実上不可能	鯨類に特化した法律が制定され保護を除いて飼育は違法である

飼育及びショー廃止

日米の飼育基準比較

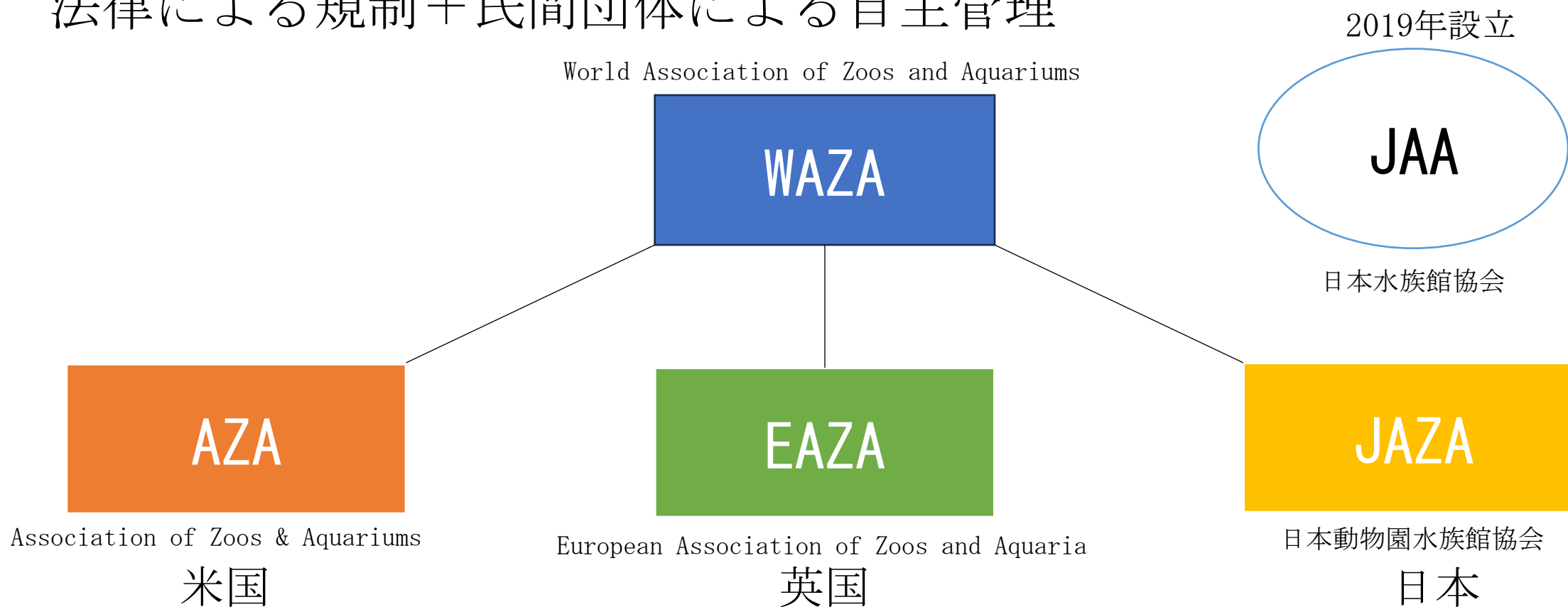
要件	米国	日本
設備	最小水平寸法7.32m、水深6m以上	日常的動作を容易に行うことができる広さ
飼育	社会性確保のため2頭以上	できるだけ複数で使用及び保管すること
環境	プール内大腸菌1000MPN/100ml以下	適度な温度、通風、明るさを保つこと
スタッフ	過去10年間で6年以上鯨類飼育経験者のみがイベント実施可能	十分な知識と経験を有する保管者、又はその監督の下で管理するよう努める
獣医	月1回は検査及び評価実施	記載なし

出典:USDA, Animal Welfare Regulations

出典：環境省, 展示動物の飼養及び保管に関する基準

各国の鯨類飼育管理体制

法律による規制＋民間団体による自主管理



それぞれ加盟にするには認定を受ける必要がある

Association of Zoos & Aquariums (AZA)

検査項目	例
動物管理	動物社会のニーズに合った集団飼育を行うこと
獣医ケア	超音波などの医療機器がすぐに利用できる状態であること
教育及び解説	最新の科学に基づいた教育プログラムの実施をすること
保全	保全活動に参加し支援すること
科学的進歩	科学的研究を実施し普及活動に努めること
組織体制	CEOは動物管理に責任を持つが、決定は施設のスタッフが行うこと
スタッフ	イベント時には鯨類頭数と同じ人数と安全確認者1名を配置すること
サポート組織	職員研修や自己啓発は会社負担で実施すること
財務	財務安全性を十分に証明すること
設備	害虫駆除や修繕は定期的に行うこと
安全性	地域警察や他機関と緊急時対応の書面を作成すること
ゲストサービス	スタッフはゲストサービス研修プログラムを受講すること
戦略計画	継続的変化と成長のために5年ごとに戦力計画を見直し更新すること

European Association of Zoos & Aquaria (EAZA)

項目	例
戦略計画	戦略計画を作成し、現実的かつ達成可能なものにすること
スタッフ	各スタッフが自身の仕事を理解し、会議に出席すること
設備	敷地内は清潔かつ整備されており、バリアフリーであること
財務	財政的な安定であり、設備投資のための予算を準備すること
動物管理とケア	動物福祉方針を作成し遵守すること
収容施設	動物にとって生理的かつ感情的ニーズを考慮すること
トレーニング	動物福祉を促進するトレーニングプログラムを実施すること
ふれあい	来客者の利益のためにだけに動物へ刺激を与えないようにすること
安全	動物飼育エリアに侵入できない障壁を設置すること
教育	科学的根拠に基づいた教育プログラムを実施すること
研究	研究スタッフを雇用し研究成果はスタッフや専門家と共有すること
その他	適切なパンフレットやニュースレターを作成すること

英米団体の特徴

AZA : 飼育スタッフの育成強化、現場を固める

鯨類に特化した項目追加(2017年)

EAZA : 動物が主体、財務的なサポートと研究活動に力を入れる

海棲哺乳類を利用したプログラム項目追加(2019年)

⇒世界の動きに合わせてアップデート

⇒アニマルウェルフェアのその先へ

Japanese Association of Zoos & Aquariums (JAZA)

バンドウイルカの適正施設ガイドライン

項目		例
水温	10度以上～32度以下	
気温	水温との差が10度以内	
照明	適度な照明、人工の場合は日照時間に合わせた点灯	
音・振動	出産や療養時は騒音や振動を最小限にとどめる	
水槽面積容積	USDA基準を準拠	
水質	殺菌除藻を心がけ、水質低下に注意する	
飼料	良質な鮮度で長期入手可能かつ安価で取り扱い容易なことを考慮	

2025年2月にAZAの飼育基準を参考に決定、ホームページ掲載
これまで、海獣類項目は空白であった

日本の鯨類飼育に関する制度

日本動物園水族館協会(JAZA), 日本水族館協会(JAA)

- ・適正施設ガイドライン, 動物福祉規定

自治体

- ・動物園条例, 動物福祉規定

各園館

- ・動物福祉行動指針, 動物福祉評価, 飼育基準・マニュアル

各園館により異なるルールで飼育・展示・ショーを実施

日本の取り組み

日本では、JAZA将来構想2025が公開

→アニマルウェルフェアの重要性を再周知

アニマルウェルビーイングの確立を目指すが・・・

動物だけでなく
関係するヒトやモノも
対象に

今、日本の水族館に不足しているもの

余力

資金の余力

設備の余力

スタッフの余力

⇒ 3つの余力を生み出すシステム構築と
そのサポート体制強化が求められる

鯨類飼育の課題

イルカ展示の方向性（品川区の方針）

品川区は、令和2年度の検討を受け以下の主要因等から総合的に判断し、新たな計画ではイルカ展示を終了するのが妥当であると結論づけました。．．．昨今のイルカを取り巻く社会情勢を踏まえても区民に愛される水族館として運営を継続していくために、区が教育的にイルカ展示を行う役割は一区切りとし、イルカ展示は終了すると判断しました。

（出典：しながわ水族館リニューアルの方向性について）

最後に

水族館＝海洋教育の普及に資する社会教育施設という位置づけ
→第四期海洋基本計画に明記

鯨類飼育は国際問題にまで発展しうる可能性がある
→対応は各園館や非国家アクター

日本の水族館に適応した法律や基準の策定
→日本としての方向性を明確化
→サポート及び管理体制構築と強化